

7
vol.149

広報 縄文村だより vol.149 (7月号)

Jomon Times

平成30年7月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



毎年会場を盛り上げてくれる、「おどりんちゆ」による「よさこい」!

STAGE

会場を盛り上げた
多彩なステージ。

会場中央に設置したステージでは、よさこいやダンス、歌が披露され、おまつりを盛り上げました。



地元小学生のダンスチーム「リズムクラブ」。かっこいい!



お買い物も楽しめます。

SHOPPING

「東松島旬の市」は、地元食材を使った美味しいものや屋台がずらり。手作りの作品や日用雑貨が並んだフリマにも、掘り出し物を探して賑わいました。

宮戸島と縄文の魅力発信!!

第7回

縄文・宮戸まつり

5月20日(日)、宮戸島春の一大イベント「縄文・宮戸まつり」を開催しました。宮戸島の絶景を楽しむ「新宮戸八景トレッキングツアー」や華やかなステージ、縄文を体感できる体験や試食、旬の市やフリマなど、会場すべてを使ってイベントを行いました。



縄文服を身につけ、道具を持って…大変身!!

似合う?

おさかな
つれた♪



縄文の釣り針でさかなつり!

PANORAMA

宮戸の絶景を楽しむ。

自然の家と観光ガイドさんによる「新宮戸八景トレッキングツアー」今年も室浜方面へ!山の上から見る「嵯峨溪」の美しさに感動!



海を見下ろしながらひと休み。

土器でぐつぐつ♪
縄文の味をめしあがれ!



カモ肉、アサリ、そば米が入った「縄文粥」。もちろん土器で煮炊きしています。

JOMON

「縄文」を満喫!

おなじみの縄文体験のほか、縄文人に大変身する「縄文写真館」、縄文人が食べていた食材を味わう「縄文キッチン」、「さかなつりゲーム」、「火おこし No.1 決定戦」、「貝塚ガイドツアー」など、縄文の暮らしや日本最大規模を誇る貝塚を体感できるイベントがいっぱい!



火おこし No.1 を賭けて!

参加者募集中!

今、「縄文」がひそかなブームになっているのをご存知ですか?じわじわと来ています。土器や土偶、その暮らしぶりなどが注目され、ちまたでは縄文にハマる人々が増えているようです。

そんな縄文時代を本格的に体験できるのが、イベント「縄文教室」!縄文人必須アイテムの土器作りから野焼き、縄文料理までを体験します。

- 縄文教室** ①縄文土器作り・・・7/22(日)
【全3回】 ②野焼き・・・8/19(日)
③縄文料理・・・9/23(日)

参加費 ※3回通しての料金です。

大人(中学生以上)1,500円 子ども 1,000円



1色の変化を楽しみます



←染料のイボニシ

「黄緑色だった染料は、日光に当たりみるみる紫色に!天気にも恵まれ鮮やかに染まりました。

ひたすらハンマーで用意した約7kg(600個程)のイボニシを割り、染料となる粘液を取り出す作業に没頭します。集まったパープル腺に海水を足してようやく染料の完成!思い思いに絵付けや染めを楽しみ、日光の下に干します。ここから「貝紫染め」の見どころ!黄緑色だった染料は、日光に当たりみるみる紫色に!天気にも恵まれ鮮やかに染まりました。

染料となるのは「パープル腺」とよばれる幅数約1寸の長方形の予想以上の小ささに気の遠くなる参加者の皆さん…。かつて高貴な者のみが許された色というの納得です。

5月27日(日)、「貝紫染め体験」を開催しました。貝紫染めは、古代から伝わる「巻き貝」を使った染め物です。昨年は染料の材料となる「イボニシ」が採れず中止に。イベントを楽しみに待っていた参加者さんも多く、2年ぶりの開催となりました。

古代から続く 貝紫染めに挑戦

もっと知りタイ! 地域おこし協力隊 <第15回>

■問 地域おこし協力隊事務局 復興政策課地域振興班 ☎内線1232

蔵しゅくパークでは接客、イベント運営を主に行っており、月例のマルシェでは趣向を凝らした雑貨などを数多く並べ、交流の場になるよう心がけています。これからは出店者をどんどん増やして、にぎわい創造につなげていきたいと考えています。

高橋徳治商店では3月に完成した野菜加工工場(三ッレモン、カボチャなどを加工しながら、活動を通じて引きこもりなど、悩みを抱える若者の就労と自立支援を後押ししています。)

「コミュニティ」の取り方は難しいですが、時間を重ねる中で少しずつあいさつも増え、笑顔も見られるようになっていきました。利用者の皆さんが働きやすいような環境を整えていくことがやりがいです。

東松島市は穏やかなまちですが、若い人は少なく感じます。高校や大学を出ても地元で働けるように皆さんの企業が集まってくればうれしです。また、キーマンとなる方が増えてくれば今よりも活気あるまちになると思います。私も東松島市で育っており、慣れ親しんだ地域で何か役に立ちたいと思って協力隊に参加し、活動しています。

仙台市内の大学に在学中、協力隊1期生とつながる縁があり、協力隊の活動に感心を抱きました。昨年11月に着任し、蔵しゅくパークと製造業の高橋徳治商店東松島工場で働き、特に若い世代の「コミュニティ支援や居場所づくり」に取り組みんでいます。

にぎわいと交流で活気あるまちへ

わたなべ かなみ
渡辺 華奏未さん(22)

コミュニティ支援

